

水道施設が抱える6つの課題

対応策

石狩西部広域水道企業団からの用水受水(平成25年度より受水する計画)により解決。

① 不安定な水源

主要水源が地下水のため、地盤沈下や塩水化、地下水汚染の危険にさらされている。

② 老朽化した浄水場

老朽化著しい浄水場施設を延命させるための補修費や維持管理費が高騰している。



③ 浄水能力の不足

既存の浄水場施設能力では、需要給水量に対し能力が不足している。

④ 小規模施設が分散

小規模施設が分散しているため、経費が増大している。

⑤ 配水管等の老朽化

老朽化した配水管の更新はしつつも、過去の集中投資※を背景に、いまだに必要更新速度に至っていない。



⑥ 耐震性能が弱い

施設の耐震性能が弱く、地震時に長期間の断水が懸念される。

※配水管は、花川南・本町・八幡・花畔・新港地区を中心に昭和40～60年にかけて集中的に整備されました

対応策

花川南地区を中心に更新中。22年度にこの更新計画を見直す。

対応策

一部基幹管路の耐震化を進めつつ、22年度に見直す更新計画の中で再検討。

第2回
テーマ

水道施設が抱える課題

いま、市の水道事業は施設の老朽化などさまざまな課題を抱え、大きなピンチの中にあります。市では、このピンチをチャンスへ変えようと取り組んでいます。

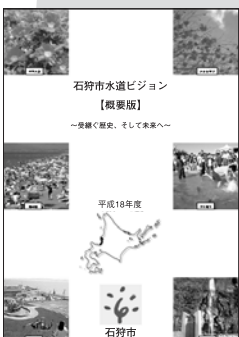
シリーズ 水道サービスを守るために

いしかりの水道

上水道施設*整備総事業費104億370万円を 平成16年度・19年度の事業再評価により「約21億円」削減!

※平成25年度から石狩西部広域水道企業団より用水を受水するための施設

「安全」で「満足(安心)」
できる水を「安定」的に供給する
「経営」の実現のために平成18
年に策定されました。



石狩市水道ビジョン
【概要版】
～愛顧の歴史、そして未来へ～
平成18年度
石狩市

『石狩市水道ビジョン』

不安定な水源をはじめ老朽化した浄水場とその不足する能力、さらには小規模施設が分散する課題については、石狩西部広域水道企業団から用水供給を平成25年度(計画)以降に受けることで、解消される予定です。

その他の課題については、平成18年度に策定した『石狩市水道ビジョン』などに基き対処する方針です。具体的には、老朽管の更新工事については、道路や下水道などの他事業と連携し、水道が凍結しない程度まで配水管の埋設深度を浅くするなど

「石狩市水道ビジョン」 の実践

水道は自然の恵みを活用した大きな装置産業です。このような性格を持つ市の水道は、4ページにあるように、主に6つの課題を抱えています。それに対し、市では次のように取り組んでいます。

下のグラフのとおりコストを縮減し、少しでも厳しい財政状況を緩和するよう努めています。また、大量の職員退職により減少が見込まれる水道技術職員の補完とコスト縮減を念頭に置きつつ、浄配水場などの運転管理を公民連携で行うべく、平成20年度から5年契約で民間企業へ委託しています(5カ年で約1億円のコスト縮減を見込んでいます)。

さらには、企業団用水を利用するための必要施設規模を適正化するため、事業再評価を定期的に行い、その見直しした予算で、老朽化した施設の更新のみならず、施設の耐震化や札幌分水などの増大する経費の一部として補い、限りある予算を有効活用しています。

ピンチをチャンスに変える取り組み

ところで、この老朽化施設の更新は、ピンチに立ち向かうための手段の一つでもあります。新たな技術を導入したり、小型化したりすることで機能向上を図ることができ、耐震化を行ってレベルアップするチャンスでもあります。

市ではこれからも『石狩市水道ビジョン』や施設更新計画、中期経営計画などのプラン策定を通じて、ピンチをチャンスへと変えるよう取り組めます。

なお、市が立案するこれらの計画などは、学識経験者や市民で構成される「石狩市

水道事業運営委員会」においてその都度審議されています。その内容はすべてホームページや市役所1階の情報公開コーナーでご覧いただけます。(つづく)

* * *

次回テーマは「水道の家計簿」です。

